

科目名 (科目番号)	家族福祉と理学療法 (062741)	教員名	渡邊 昌宏 他	学科等	理学療法	選択	履修年次	4
				曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
				オフィスアワー		渡邊研究室		
授業概要	急性期、回復期を経過し維持期へと移行していくリハビリテーションの対象者は増加傾向である。どのような人であっても、最後の姿がその人らしくあることを求めることがリハビリテーションの思想の一つである。本講では介護予防、終末期リハビリテーションを中心として、リハビリテーション医療と福祉との接点について学習する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること							
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標					
	1	介護予防と理学療法	到達目標:理学療法を受けるための保険について学び理学療法士の役割を理解する。 学習内容:障がい者に関する保険について学習する。					
	2	介護予防リハビリテーション	到達目標:介護予防理学療法の方法について理解する。 学習内容:予防理学療法について学ぶ。					
	3	社会的孤立と孤独感に対するリハビリテーション①	到達目標:障害によって引き起こされる障がい者の孤立と孤独とその対応に関して理解する。 学習内容:障害による孤独について学習する。					
	4	社会的孤立と孤独感に対するリハビリテーション②	到達目標:家族の介護負担、患者の孤独と孤立に対して理解しサポート方法を理解する。 学習内容:障害による孤独について学習する。					
	5	リハビリテーション医療の流れ	到達目標:臨床経験を踏まえた講義をおこない、理学療法士としての思考過程を身につける。 学習内容:地域で必要とされる理学療法士の職域を学ぶ。					
	6	終末期リハビリテーション	到達目標:自立が望めず意識すら不確かな人々に対する理学療法の意義を理解する。 学習内容:終末期の理学療法について学ぶ。					
	7	リハビリテーションの実際①	到達目標:提示された症例情報をもとに、症例の方向性、理学療法の介入方法を報告できる。 学習内容:在宅障がい者の理学療法について学ぶ					
	8	リハビリテーションの実際②	到達目標:提示された症例情報をもとに、症例の方向性、理学療法の介入方法を発表できる。 学習内容:在宅障がい者の理学療法について学ぶ					
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
成績評価の方法・基準	発表(70%)(評価表に基づいて評価を行います)+レポート提出(30%)							
教科書	適宜資料を配付いたします。							
参考図書	介護予防リハビリテーション 新・芯から支える実践リハビリテーション心 理 実技・終末期リハビリテーション		藤原茂 大田仁史 大田仁史 監修		青海社 荘道社 荘道社			
教員からのメッセージ	障害者の視点にたつような内容で臨床実習Ⅲにつながる形式で授業を進めます。 実習だけではなく臨床でも必要とされる目標設定や予後、その人らしさについて考える力を養います。 レポートはコメントを付して後日返却します。							